

木田市長の



ど〜んと  
真珠のように輝く  
まちづくりのために

コミュニケーション vol.77

しろやま嘉隆まつり開かれる

4月8日、しろやま嘉隆まつりが開催されました。当日、しろやまに來られた読者のみなさんも多かったのではないのでしょうか。

鳥羽の春まつりに合わせて、もつとまつりを盛りあげよう、もつと鳥羽の町を元気にしようというところで有志のかたがたが、がんばってくれました。伊藤委員長はじめ実行委員会のみなさん、ボランティアで参加していただいた多くのみなさんに対し、お礼を申し上げます。

今年は桜の開花が遅れていたこともあり、ちょうど満開の桜がまつりを大いに盛り上げてくれました。

その桜の下、長野県の松本城鉄砲隊による火縄銃の実演をはじめ、多く並んだ屋台やたくさんのお客様を市民や市外からのお客様さんが楽しんでました。

はじめての試みで「大ホラ吹き大会」が同時に開かれました。御木本幸吉翁が「わたしはホラは吹くが、うそはつかん」と言ったと伝えられることから、この催しがスタートしました。わたし自身、九鬼嘉隆に扮した衣裳で、このホラ吹き大会に参加しました。NHKなどで報道されたこともあり、各地から反応がありました。

はるか屋久島の友人からも電話があり、「テレビで見たよ」と言ってきました。「へえー、屋久島でも報道されたん？」と驚いたところですが、東京出張の際も、何人かの知人から殿様姿を見たと言われました。

まつり関係者の多くのみなさんの努力のおかげで、わたしも全国の知人に、思わぬ便りを発信することができて、喜んでいきます。

もちろん、わたしのことを知っている人は、全国的には

ほんのわずかですから、「鳥羽のしろやま嘉隆まつり」が全国に発信されたことがとても大きかったと思います。

わたしたちは、伊勢志摩や鳥羽は有名だと考えていますが、とてもとても、鳥羽を知らない人のほうが圧倒的に多いわけです。情報を発信し、多くの人々に鳥羽のことを知ってもらうことが大切です。発信し続けないと、すぐに忘れ去られることになりま

本年度より、鳥羽市としてはじめて、東京に駐在員を派遣しました。その情報発信などの効果を大いに期待するところです。各団体として、また個々の企業としても、鳥羽市の駐在員を十分活用しても



人権文化の  
花を咲かせよう

vol.118

人権講演会

鳥羽市では、毎年、人権講座や人権講演会を開催しています。過去に開催されたテーマは、北朝鮮拉致被害者家族をお迎えしての切実な訴え。時代によるいわれのない認識により現在も人権侵害をうけている同和問題。インターネットによる書き込みや学校裏サイトによるいじめなどと、この10年間に発生してきた新たな人権侵害。近隣の繋がりの希薄化により、子どもたちが虐待されていても気がつかないなど、地域を通して行う子どもの人権を守るためのお

はなしなどです。

昨年は、東日本大震災で被災されたかたからの実体験や震災によって引き起こされた人権問題について講演がありました。

講演会に限らず、人権は日常会話や世間話の中にもキーワードが隠されています。差別の気持ちがなくとも何気ない一言が、相手を傷つけることがあります。

本年度も6月、12月の予定で講演会を開催いたします。詳細が決定次第、みなさんに広報などで紹介します。いろいろな立場で経験をされたかたがたの講演を聞くことは人権感覚を磨くいい機会です。認識を改めるような言葉や心に残る言葉を探しながら参加をしてみたいかがでしょうか。

